

[ 新連載 CSOネットワーク ]

## 「NGOフューチャーズ・イニシアティブ」とは？

CSOネットワーク 共同事業責任者 今田 克司

貧困削減と住民主導の開発の声が高まり、安全保障の利害が人道支援の領域をおびやかす、貿易や投資、企業の社会的責任（CSR）など、民間セクターの開発における役割が注視されている。そんななかで、従来のNGOの枠を超えたCSO（市民社会組織）が鍵を握るアクターとして認知されてきている。この連載では、最近の国際NGOをめぐる動きをレポートする。第1回は、英国で進行中である先進諸国のNGOの役割の問い直しをめぐる議論を紹介する。

2004年4月28日、ロンドンのウエストミンスター寺院近くの集会室に、英国の国際開発NGO（以下NGO）を代表する人びとが約80人集まった。NGOのアンブレラ組織である BONDが主催した、「NGOフューチャーズ・イニシアティブ」の立ち上げ会議である。この「イニシアティブ」自体は、もともと1998年に、新しい援助の潮流のなかでNGOが自らの存在意義を問い直そうと始められたものだが、今回、強まる危機意識のもとに再開されたものだ。

90年代後半以来、「北」のNGOが抱いてきた危機意識とは何であろうか。

ドナーが打ち出す開発アジェンダが貧困問題に集約され、貧困削減の効果を高めるための包括的なアプローチや援助戦略が編み出されるようになると、「南」の国のオーナーシップを高めることが重要視されるようになった。すると、それまで「北」のNGOが「南」の国で行ってきた資金提供、技術移転、社会サービスの提供などは、「南」の国の政府、NGO、住民組織などに取って代わられるべきという議論になる。「北」のNGOの役割は、「南」の国の能力構築への協力や支援へと移り、また、「南」のパートナー団体との連携を深めながら、現地声を自国政府やG8政府に届けるアドボカシーを強化していくことだと説かれるようになった。同時に、

国際的な開発目標を達成するために国際的に連携し、自国民を巻き込むキャンペーンの実施や、自国内での支援基盤の拡大などに力を注ぐのが新しいNGOの姿として描かれるようになった。こういったシフトは、住民主導や南のエンパワーメントといった呼び声と合致し、もともとNGO自身が求めていた流れに沿ったものである。ところが、これらは従来のNGOのあり方自体に大きな転換を迫るものであり、変えるのは決して簡単ではない。

「NGOフューチャーズ・イニシアティブ」に集まったのは、そういった意味での危機意識をもちながらも、自分たちは具体的になにをどうしたらいいのかと考えている人びとだ。当初の98年と比べても、01年の9・11同時多発テロ事件、その後アフガニスタン空爆、そしてイラク戦争と、国際情勢はめまぐるしく変化し、そしてさらに複雑化した。NGOを取り巻く状況や、NGOが直面する課題も困難を極めている。

当日は、グローバリゼーションと単独行動主義、イラク反戦デモなどに見られる新しい社会運動の力、「南」の国家や市民社会組織の直接支援を強化するドナーの動きがNGOに与えている影響などが議論された。彼らにとってとくに問題なのは、英国国際開発庁（DFID）に代表されるようなドナー機関

プロフィール  
今田 克司

CSOネットワーク（www.csonj.org）

国際協力・開発の分野でCSO（市民社会組織）のグローバルなネットワーク化を進める。おもな活動に、CSOや国際協力に関する調査・研究、国内外のCSO・自治体職員向けの研修実施、CSOの役割に関する情報発信など。

が、英国から「北」のNGOをバイパスして、「南」の国に直接資金を流そうとしている動きで、すでにプロ化しているNGOは、資金が来なければ仕事にならない。そうであれば、新たに支持基盤を獲得する必要があるのだが、反戦デモに参加するような層、とくにインターネットを駆使して情報交換をしながら運動を盛り上げている若者の層に、NGOはアウトリーチできていない現状が紹介された。時代の要請に応え、新しいNGOに転換していくためには、新たな支持層の開拓は急務なのだが、途上国への関心が一般に高い英国でも、多くのNGOが苦勞しているようだ。

今回は「立ち上げ」の会合だったので、今後、英国のNGOが協力して取り組むべき課題を抽出して、ワーキンググループなどの形で、議論を深め、自らの存在意義を問い直していく作業が2年間続く予定になっている。

英国のNGOが議論している先進諸国のNGOの役割の問い直しは、すでに他のヨーロッパ諸国でも同じように議論されている。日本のNGOにも大いに関連するものばかりだ。まだ始まったばかりのこの「イニシアティブ」の議論の行く末を見守るだけでなく、引き続き議論にも積極的に参加していきたい。「NGOフューチャーズ・イニシアティブ」については、下記を参照。

<http://www.bond.org.uk/futures/index.html>